

審査の結果の要旨

氏名 吉田 真悟

今日の都市社会は多様な課題に直面しており、こうした中で、都市近郊の農業経営は、多面的な機能の担い手となることが期待されている。彼らの多くは事業の多角化を通じて、都市住民の多様な需要を満たし、交流や情報発信により信頼関係を構築し、家族の経営参加を促進して円滑な経営継承を実現している。しかし、都市近郊農業経営における多角化の実態を把握し、その持続的経営発展に帰結しうる経営内外の要因を解明する研究は国際的にも不足している。

農業経営の多角化に関する実証上の課題として、多角化の把握における操作化、多角化と持続可能性との関係の解明、多角化の決定要因における多様な要因の考慮が挙げられる。そこで申請論文では「多角化を通じた都市近郊農業経営の持続可能性の向上に影響する経営内外環境の解明」を目的として、日英の都市近郊農業を対象とした実証分析を行っている。

分析結果として、第一に、空間計量分析を用いて、農業生産関連事業が活発な地域は人口密度の高い地域に空間的に集積していることが示された。また、空間ラグモデルを用いた回帰分析の結果、後継者や女性農業従事者、雇用労働力利用による農業生産関連事業率への正の影響が示された。さらに、地理的荷重回帰モデルの結果、都市近郊地域では、後継者確保と直売事業の実施との強い関係がみられた。また、小規模経営と農業生産関連事業の実施との関係も都市近郊地域で強いことが示された。

第二に、首都圏の農業経営を対象とした定性的分析より、事業間の生産管理および流通販売管理の共通性、事業機能の補完性をもとに、都市近郊農業経営における単位事業を特定した。また、多角化プロセスについて、高度多角化型、事業補完型、基幹事業探索型、従来事業追求型に類型化し、アントレプレナーシップと経営資源を備えることにより経営発展が達成されることを示した。

第三に、首都圏でのアンケート調査を用いた定量分析において、多角化、経営管理能力、アントレプレナーシップの指標化を行い、それらが経済的、社会的成果にもたらす影響を評価した。多角化の有無は販売促進ツールの導入数と後継者確保には正の影響があるものの、その他の経済的成果や社会的成果への

影響は小さいことが示された。一方、多角化度と経営管理能力の交差項を導入したところ、経済的成果の向上に有意に影響し、また、非関連多角化と経営管理能力の交差項は、社会的成果と経済的成果の向上に有意に影響していることが明らかになった。したがって、多角化と経営内部環境の適合関係、とくに経営管理能力の有無が、成果を左右することが示された。

さらに、多角化指標および経営戦略指標（経営管理能力、アントレプレナーシップ等）を用いたクラスタ分析により、革新的多角化型、受動的な多角化型および専門化型に類型化して推計を行った結果、革新的多角化型が経済的成果、社会的成果および家族的成果の達成において優れていることが示された。

また、英国の都市近郊農業経営に対するアンケート調査を用いた構造方程式モデリングの結果、アントレプレナーシップは経営管理能力の向上を通じて多角化を促進していることが示された。さらに、社会情緒的資産のうち家族の経営参加への選好は多角化とアントレプレナーシップの両方に負の影響があること、家族の社会参加への選好は両方に正の影響があることが示された。また、多項ロジスティック回帰分析の結果、垂直的多角化と水平的多角化の両方を実践する経営では経営管理能力のうちマーケティングと労務管理に優れ、家族の社会参加への強い選好があることが示された。

同データを用いた包絡分析（DEA）の結果、経営管理能力のうちマーケティング能力と労務管理能力を併せ持つ経営における生産多角化の有効性が示された。また、生産多角化と事業多角化の両立が効率性の向上に貢献すること、事業多角化のうちツーリズムや農家民泊、教育事業は、生産多角化との相乗効果が大きいことが示された。

以上の定性的分析および定量的分析の結果から、今後の都市近郊農業では、高度な経営管理やアントレプレナーシップに基づく革新的な多角化経営が地域農業を支える存在となり、多面的機能を発揮できる可能性も高いことが示された。農業経営の規模拡大や企業的管理の進展によって経営の異質性が強まると予想される中において、本論文の分析手法は個別経営の持続可能性の向上に資すると考えられる。

これらの研究成果は、学術上応用上寄与するところが少なくない。よって、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。